

ファイナンス理論

谷川 寧彦 教授

1. 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

生産関数の凸性などの要件が満たされ、無摩擦の市場が完備されていれば、競争均衡はパレート最適である(厚生経済学の基本定理)。現実には、市場は存在しないことが多い。ひとつの理由は、市場取引に経済資源の投入が必要なためである。このとき、市場(取引機会)を提供すること自体が経済活動となり、民間の主体は、投入した資源の費用が回収可能な場合にのみ市場を提供するインセンティブを持つ。政府などの公共的主体が市場を提供する場合も、その設立および維持コストは、経済内の誰かが負担しなければならない。とりわけ証券取引の場合は、誰かが市場を利用して得た結果——すなわち市場価格などの情報——は(利用に排他性がないなど)公共財的性質を持ち、資源配分上、大きな影響を持つ。「市場」を支えるコストを負担する仕組みとして、どのような形が好ましいのであろうか。また、「市場」を使わない取引とは「組織」すなわち企業内部の取引、あるいはその中間における取引である。証券取引所の競争相手は、証券会社内での取引ないし証券会社を結ぶネットワークにおける取引といえる。市場を支えるコスト分担の望ましい仕組みと、市場以外の取引のあり方との間には関係があるのだろうか。こうした問題意識をベースに持って、マーケット・マイクログストラクチャー、コーポレート・ファイナンス、オプションなどについて研究している。

2. 指導方針

自分でおもしろいと本当に思ったことを、深く追求することができるようになることが、研究者としては重要と考える。大学院の時期は、既存の研究成果を知り、既存の研究手法にも親しむなど、基礎的な力を身につける時期である。ツールにせよ過去の研究成果にせよ、自分の研究に使うためには100%理解できていないと役には立たない。学生の研究テーマは学生自身の選択に任せるものの、納得するまで考え抜き、100%自分のモノにするという態度を学生に期待している。